

下呂農林事務所の普及活動状況 令和7年8月31日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者 関係機関による就農状況確認

下呂市では、国の農業次世代人材投資事業や新規就農者育成総合対策事業による支援を受けて新規就農した多くの生産者が農業経営をしています。

農業普及課では、8月5日から29日の間に、下呂市農務課が実施する就農状況確認に、JAひだ益田営農センター担当者と共に同行し、概ね10年以内に経営開始した33名の生産者との個別面談を行いました。

まず、今年度の営農状況や解決すべき問題点、今後の展望などについて下呂市担当者が新規就農者に聞き取りし、その後関係機関からの指導助言や意見交換を行いました。

近年の夏秋トマトの高単価の影響から、売り上げも好調で更なる出荷拡大を目指す前向きな生産者が見られた一方で、単収の伸び悩みや労働力不足で、就農計画の目標達成が困難な生産者もあり、各生産者の課題と目標を共有することができました。

農業普及課では、今回の就農状況確認で得られた情報を活用し、今後も関係機関と連携しながら新規就農者の早期経営確立に向けた伴走支援を行います。

(地域支援係)



【就農状況確認の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稻（きぬむすめ） 実証ほ現地検討会を開催

夏の高温による米の品質低下が近年問題となる中、農業普及課では、高温による影響が少なく良食味が期待できる水稻品種「きぬむすめ」の現地実証を行い、この地域に適した栽培体系の確立を進めています。

8月20日には、下呂市内の実証ほ場において、生産者や関係機関の担当者14名が参加し、現地検討会を開催しました。

今回の現地検討会では、地域やほ場条件、施肥の異なる3ヶ所のほ場を参加者で見て回り、現在の生育状況について比較検討を行いました。

出席者からは、「安定した収量を確保するために施肥量を増やす必要があるのではないか」「来年度は新たに牛糞堆肥を活用した栽培に取り組みたい」などの意見が出されました。

農業普及課では、実証ほにおける収量や玄米品質、食味の調査を継続して行い、この地域に適した栽培体系を確立するとともに、「きぬむすめ」の地域への導入・普及拡大に向けた取組みを進めていきます。

(地域支援係)



【現地検討会の様子】